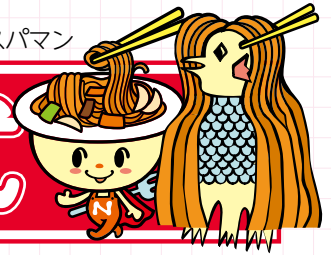


はじまっています！

新しい生活様式

焼きスパマン

あまびえ



新型コロナウイルスの感染拡大が続き、無症状の感染者も増え、誰が感染してもおかしくない状況となっています。そのような中、家庭や学校、職場などでは、新しい生活様式が徐々に浸透しています。あなたやあなたの大切な人を守るために、引き続き、感染拡大の防止対策にご協力をお願いします。

子どもたちも実践中！



手洗い



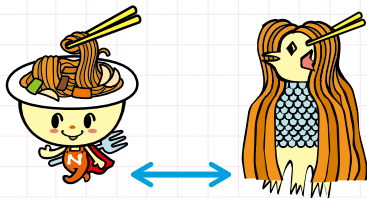
検温



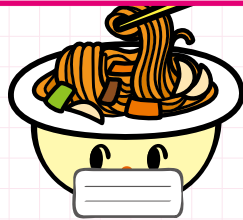
間仕切り

皆さんも防止対策を！

できる限り
2m(最低1m) 空けよう



マスクを着用しよう



手洗いをしよう



3密を回避しよう



ご相談ください

市では、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、収入が大幅に減少した方などに向けた支援を行っています。ぜひ、ご利用ください。

市税、国民健康保険税

▶ 税務課納税係
(TEL 25-2145)

国民年金・障害年金等

▶ 市民・人権同和対策課市民年金係
(TEL 25-2112)

後期高齢者医療保険料、
介護保険料

▶ 保険課高齢者保険料係
(TEL 25-2116)

介護サービス費等

▶ 高齢者支援課介護サービス係
(TEL 25-2390)

水道料金等

▶ 上下水道料金センター
(TEL 25-2174)

事業者向け支援

▶ 商工観光課商業観光係
(TEL 25-2156)

医療等の相談窓口はこちら

- 医療機関受診に関して
嘉穂・鞍手保健福祉環境事務所
(TEL 0948-21-4972)
夜間・休日の連絡先
(TEL 092-471-0264)
- その他の問い合わせ
県がん感染症疾病対策課
(TEL 092-643-3288)
厚生労働省電話相談窓口
(TEL 0120-565653)
聴覚障がい等、
電話での相談が難しい人
(FAX 03-3595-2756)

避難所の間仕切り設置で感染防止

7月15日、市庁舎で新型コロナウイルス感染症対策における避難所の間仕切り試験設置を行いました。新型コロナウイルス感染症が流行する中で、3密（密集、密閉、密接）になりがちな避難所の運営方法が全国で検討されています。直方市では飛沫感染予防対策として、人との接触をできる限り防ぐ間仕切りを活用した避難所の準備を進めています。

間仕切りのシステムを開発したのは、市内の企業である（株）エバー・ウィステリアです。一般のホームセンターで購入できる塩化ビニール管を柱や梁に、同社が開発した特殊な金具で接合するというもの。同社社長の藤永勝巳さんは「専門知識や工具がいらないため、誰でも簡単に設置できる」と話しました。



まちの話題



県に道路や河川などの整備を要望

8月5日、県が実施している事業の早期完了と新規事業の要望を行うため、市長と本市選出の香原県議会議員が直方県土整備事務所を訪問しました。要望会では、昨年からの調査や測量等が開始された県道福岡直方線（勘六二期工事）や川端川をはじめ、現在、県が整備を行っている道路や河川など（14箇所）の早期完了と、早急な架け替えが必要な天神橋など（4箇所）の新規事業化について要望を行いました。

同事務所の尾崎所長は「今後とも直方市の発展に向け、各事業に、精力的に取り組んでいきたい」と話しました。（写真：左から市長、香原県議会議員、尾崎所長）



集団検温を迅速に

7月15日、健康福祉課別館で市とアドバンテック・テクノロジーズ（株）がサーモスキャン・システムの実証実験を行いました。非接触で体温検出ができるシステムで、市内に本社を置く同社が開発したものです。従来の非接触型の体温計は、一人ひとり額などにあてて検温する必要がありましたが、このシステムではAI搭載のカメラを活用することで、多数の人を瞬時に測定することができます。

この日は、乳幼児健診で実証実験を実施しました。今後は、実験データをもとに、運用管理や業務のIT化を検証していきます。同社社長の石田隆裕さんは「感染拡大防止に貢献できれば」と話しました。



市のホームページでは、この他の話題も公開しています。

